

環境省

環境大臣 丸 川 珠 代 殿

要 望 書

このたび、貴台には、第3次安倍改造内閣において環境大臣に御就任されましたことに対し衷心より御祝いを申し上げます。

さて、昨年1月20日、加美町の田代岳国有林が宮城県放射性指定廃棄物最終処分場候補地の一つに選定されましたが、候補地が30度以上の傾斜地に該当するなど選定要件を満たしていないことから、地元住民等が白紙撤回を求め、今日まで貴省と協議を重ねてまいりました。

このような状況下において、去る9月10日から11日にかけての「関東・東北豪雨」により加美町内では甚大な災害が発生いたしました。床上浸水25世帯、床下浸水100世帯のほか、町道113箇所と農道・林道77箇所が土砂崩落や路肩決壊、ため池や水路等の農業用構造物は42カ所（施設）が損壊、278ヘクタールの農地が冠水いたしました。現在、役場庁舎内に災害復旧対策チームを設置して生活基盤の復旧を優先的に進めているものの、これら完全復旧には相当の期間を要します。

懸命な復旧への取り組みの最中、貴省は10月6日、7日、8日、9日と4日間、宮城県放射性指定廃棄物最終処分場候補地となっている加美町田代岳国有林の現地調査を強引に実施しようとされました。

現在、貴省と加美町においては、専門家を交えた意見交換会を近日中に開催すべく調整を進めているところでありますし、貴省においては宮城県内に存在する指定廃棄物の保管量及び濃度の再調査を実施している最中と伺っております。

なぜ、この時期に突然、3候補地のうち田代岳にのみ現地調査に入られたのでし

ようか。全く理解することが出来ませんし、国と町の信頼関係を損なう行動と受け取らざるを得ません。

しかも、貴省担当者からは当分の間、毎日入るとの連絡があり、高齢の住民の健康状態も心配されます。10月10日から12日（祝日）までの3連休中にも強引に現地調査に入るといった非常識な行為は止めて頂くよう強く申し入れます。申し入れが受け入れられない場合は、専門家を交えた意見交換会の開催は再検討せざるを得なくなります。

望月前環境大臣は10月6日の最後の記者会見において、「環境省としては町と信頼関係が非常に大切に、今後も出来る限り皆さんにご理解を頂ける努力を積み重ねていきたい」と述べられ、現地調査を強引に行わず、地元の理解を得るために丁寧な説明を続ける考えを改めて示されたと理解しています。

どうか、丸川新環境大臣におかれましても、望月前環境大臣の発言を体し、町との信頼関係を大切にして住民に寄り添った対応をお願いいたしますとともに、この放射性廃棄物問題の本質を再確認して頂き、平穏な暮らしを切望する地元住民の思いを踏みにじることのないよう、新たな被害を生まない解決方法を見出して頂きたく強く要望いたします。

平成27年10月9日

宮城県加美町長 猪股洋文